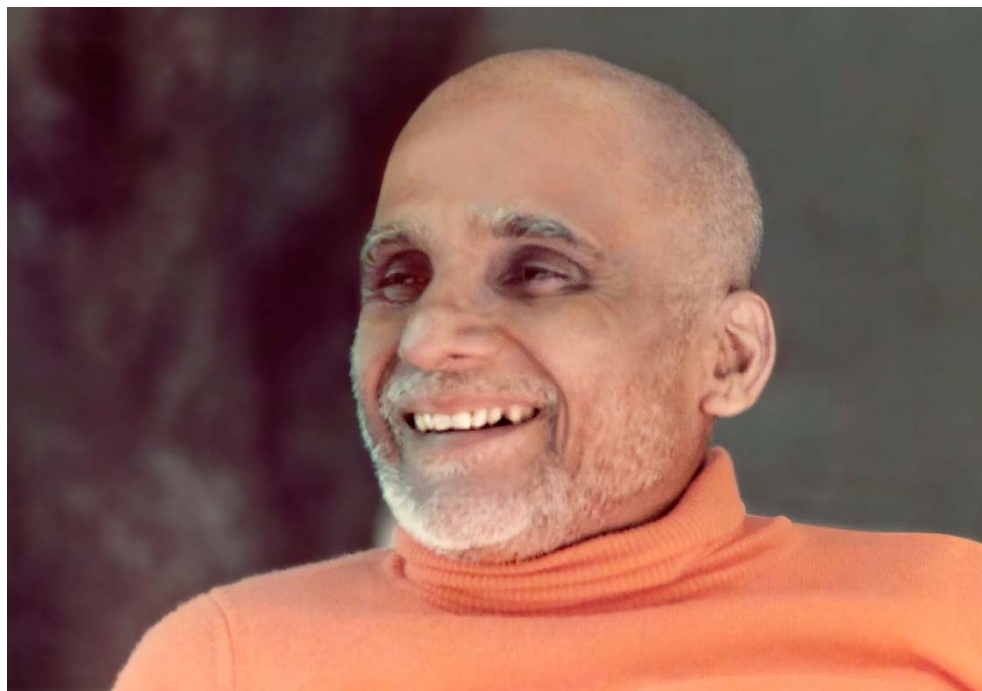


人生における 4 つの葛藤

The Four Conflicts of Life

2022/04/25 版



スワミ・クリシュナンダ 著

The Divine Life Society

Sivananda Ashram, Rishikesh, India

ウェブサイト： <http://www.swami-krishnananda.org>

他の和訳： <https://yogajbooks.wordpress.com/>

(1996年9月19日にヨーガ・ヴェーダーンタ・フォレスト・アカデミーで行われた講義)

このアカデミーは単なる学習の場ではなく、人生の現実と困難について啓発する場でなくてはなりません。どのような講義を受けても、私たちの問題は依然として変わりません。私たちは困難に対する解決策を見出す必要があります。

私たちにはどのような困難があるのでしょうか。この問いかけは、一般に哲学と呼ばれているものの本質へと私たちを導きます。あらゆるものの背後にある、究極の原因を理解しようとする努力が哲学と呼ばれるものであり、そこで求められているのは質問に対する暫定的な答えではなく、最終的な答えです。なぜ物事はこのようになっているのか？なぜ、私たちの目に映る、このような世界でなくてはならないのか？

重要な問題について話し合うとき、私たちはたいてい、ある種の衝突、対立に直面します。私たちの人生は、外の世界のものと衝突しないように、自分の内と外における調整、調節の連続であることに気づいているでしょう。

自分と、あなたが自分以外だと考えるものとの間に対立があってははいけません。この世界には、あなた自身とあなた以外の二つしかありません。この世界には、自分とは見なすことができないものがあることを理解しているのでしょうか。「それは私ではない。この人は私ではない。これは私ではない。みな私ではない。私は広大な宇宙として眼前に広がる万物とは異なる何かだ。この世界のものはすべて私ではなく、それらと折り合うことなどできない。この世界には私以外のものしかない」。

「自分自身に自分を合わせることはできても、自分とは相いれない特性の他人に自分を合わせることはできない」と考えるかもしれません。

自分自身は調和がとれている状態だというのは本当でしょうか。他の人や物と調和をとる必要性については、ひとまず忘れてください。私たちの人格は、さまざまな側面が調和した状態で一つとなっているのでしょうか。そして自分が完全に自立し、健全な状態だと感じているのでしょうか。それとも自分は弱い存在だと感じているのでしょうか。

感情は予測不可能なものですから、奔放で收拾がつかない感情をコントロールすることはできません。私たちは、感情が受け入れられないものを知的、哲学的に正当化します。

そしてまた、感情が要求しているものは、哲学的あるいは合理的に受け入れられるものではないかもしれません。往々にして私たちは非科学的な感情を持っています。不合理な衝動と呼ばれるもので、論理的に正当化することのできないものです。「何かがおかしい」。このように感じることはないでしょうか。「幸せではない」。それは誰のせいでしょうか。

私たちは常に、自分の不幸は誰かのせいだと言います。これは自分を知らない人の幼稚な言い分です。見かけだけは調和し、統合された人格に見えるだけの、散逸してバラバラになった人格は、健全な状態だとは言えません。かき乱された感情、満たされない欲望、苦しい不安、恐怖などがあるときには、精神が健康な状態であるとは言えません。健康とは内的にも外的にも、あらゆる苦痛から解放されている状態のことを言うのです。

何世紀にもわたり、これらの問題について深く考えてきた人たちは、この世界には様々な葛藤があるということに気づきました。基本的な葛藤は自分自身の内にあります。理性と感情が衝突し、気持ちと理解が同調しません。とても高い知的能力を持っていても、感情的には貧しく、家庭内で問題を抱えているかもしれません。公の場では学識豊かな人も、家庭生活ではうまく調和をとれていないことがあります。私生活と外の生活との間に分裂があるのです。公的な場での自分と、私的な自分が異なります。これは心理的な葛藤、人格の内的な不整合であり、そのため私たちは、すべてが良好である、幸せだと言い切れないのです。

「私には何も問題はありませぬ」と言い切れる人はいません。必ず、「ただ…」と続きます。「問題ありませぬ。ただ…」。このような個人で構成される人間社会とはどのようなものなのでしょうか。人間社会は同じような個人の集団です。個人がそれぞれ精神的な不整合や葛藤を秘めているのであれば、人間社会全体が同様の困難に苦しんでいるということになります。ですから、個人に平和がなければ、社会の平和はあり得ませんが、私たちは概して社会平和を目指します。人々の思考と感情に調和をもたらすために、円卓会議を開催したり、組織を作ったり、さまざまな祝典を開催したりします。しかし、各個人はそのような調和の状態にありません。

社会が個人によって構成されている以上、個人の平和がなければ社会の平和はありえません。つまり、個人的、心理的あるいは精神分析的とも言える、自分自身の中の葛藤と、そのために生じる社会的な葛藤という二つの葛藤があります。これは皆に言えることで

あり、内的な葛藤を持ちながら外的な平和を得ることはできません。そのために、このような世界があるのです。

人々は外面的な世界の構造を、組織体系を作ること活気づけ、うわべを取り繕おうとします。しかし組織とは何でしょうか。組織を構成するのは私たち個人です。個人には内的な葛藤と外的な葛藤があります。私たちは自分自身の中で調和を保つことができず、また、人間社会と調和を保つこともできません。しばしば自分自身に恐れを感じ、また他の人たちのことを恐れます。人間はみな兄弟姉妹だとしながらも、その兄弟姉妹から自分を守るために裁判所や警察、軍を必要とするのです。

社会的葛藤や個人的葛藤は、私たちが感じる分かりやすいタイプの葛藤です。しかし、心理的葛藤や社会的葛藤よりも重要な、私たちが気づいていない不調和があります。それは自然界との不調和です。私たちは自然界の法則に従って生きていません。そもそも、私たちには自然界の成り立ちを知ることができません。簡潔に言うと、自然界とは、天地万物を包含し、寸分の狂いもなく作動する、完全無欠の有機体だと言えます。

自然界では、すべてが起こるべき時に、起こるべくして起こります。自然界に偶然はありません。自然界の働きは偶然や気まぐれではありません。私たちは「あれは事故だった」とよく言いますが、事故とは私たちに原因が理解できない出来事のことです。自然界のなかに常軌を逸した動きというものはありません。それは、生命力、知性、目的性の、完全で内的に有機的なシステムです。

私たちは自然界の中にいるのでしょうか、それとも外にいますのでしょうか。これもまた私たちの目前にある対立、葛藤です。あなたは、この完全無欠で美しい自然界の中にいるのですか？それとも、その外にいて好き勝手に振舞っているのでしょうか。実際のところ、私たちは自然界の摂理について、少しも気にかけていないように見えます。「太陽が昇ろうと、雨が降り、風が吹こうと私には関係ない」と。世界は自分のニーズを満たすためにあるのだと当然のように考えています。私たちは、私たちの外に広がっていると思える自然界と有機的な一体感を持ってません。

自然界は私たちの外に広がっているものではありません。自然界は、私たちの人格そのものの総体であり、本質です。心と体を持つ私たちの人格と、この自然界は、同じもので作られています。この宇宙を織りなす、さまざまな物質によって私たちは成っているのです。外で降る雨は内でも降っています。チャンドギャ・ウパニシャッドは、このよ

うな啓示に富む、非常に優れた経典です。外で鳴る雷は内でも鳴っています。外で雨が降れば、それは心理的に内でも降っているのです。外で起きた地震は内でも起きています。自然界で起こることはすべて個人の内でも起きています。個人、個体とは自然界全体の一部、断面図だからです。

私たちは小宇宙です。天空の星、太陽、月の中に見出せるものは、すべて私たちの中にも見出すことができます。潜在的で、顕在化できるものとして、世界は私たちの中に在ります。世界が私たちの中に在るとするのは適当ではありません。私たちが宇宙そのものなのです。私たちが宇宙の中にいると言うと、それは、世界が外にあり、両者につながりがないことを意味します。私たちと宇宙の切り離すことのできない関係は、日々きわめて明白であり、私たちが宇宙の中において、宇宙が私たちの外にあるとは言えません。自然界には内も外もありません。

それならば、私たちは世界のどこで生きているのでしょうか。リシケシでしょうか。インドでしょうか。私たちは今どこにいますか。あなたは今どこにいますか。シバナンダ・アシュラムにいますと、子供のような回答をしないように。地球上にいますと言うほうが「リシケシにいます」と言うよりは良い答えでしょう。地球にとってリシケシはなく、国や国籍もありません。地球はただ地球であり、私たちは地球上で暮らしています。

自分の足下には地球があり、頭上には空があると思っけていますか？「空はこんなに高く、太陽はこの空の彼方にあるのだ」と。しかし、この地球が宇宙船のようなものだとすることを忘れてはいけません。地球は一か所にとどまることなく、空間を飛び続けています。地球では二面性を持つ絶え間ない動きが起きています。私たちは今、地球上ではなく宇宙の真ただ中にいます。私たちは今この地球という宇宙船の中において、宇宙の中にいるのだと聞くと驚きませんか？

子供のように、「宇宙船に乗っているのなら、落ちたりはしないのかな」などという疑問が湧くかもしれません。空を飛ぶものなら、落下して粉々になる可能性もあります。なぜ宇宙を飛んでいる地球は落ちないのでしょうか。なぜ、支えなしで宙に浮いている太陽は地球上に落下してこないのでしょうか。

私が提起しようとしている答えは、「あなたは今どこにいますか」という問いかけに関連するものです。私たちは宇宙空間におり、この太陽系という有機体を維持す

る目的で自然界が定めた軌道に乗って、回転しながら動いています。この巧な軌道システムのおかげで、惑星同士がぶつかることはありません。地球が太陽に衝突することはありません。重力システムの途方もなく整然とした内的秩序により私たちは生かされ、快適に暮らしているのです。

私たちは快適に暮らしていますが、この快適さはどこから来るのでしょうか。それは、何一つ静止しておらず、すべてが見事に活動している太陽系という途方もない普遍的秩序から来るのです。すべてが、すべてと数学的正確さで連携しているため、偉大な科学者でさえ、その仕組みを理解することができません。

では、あなたは今どこにいらっしゃるのでしょうか。「リシケシにいます」とは言わないでください。あなたは太陽系の真ただ中にいます。太陽系はどこにあるのでしょうか。科学が示すところによると、この星間空間には無数の太陽系が存在しており、最も強力な望遠鏡を使ってもすべてを見ることはできません。銀河系には何百万もの太陽系が存在しており、私たちはその中の一つにいます。リシケシにいますと考えるのは、真実とは程遠いのです。

時空世界のなかには無数の太陽系が存在しています。時間、空間、原因と呼ばれる秩序の仕組みは実に驚くべきものです。時間、空間、原因が、有機体である自然界全体を完璧な状態に維持しており、私たちはこの宇宙の中心にいます。

あなたは今どこにいらっしゃるのでしょうか？あなたは宇宙の中心にいます！喜ぶべきことではありませんか？浴室やキッチン、町中などではありません。宇宙全体の法則に守られている偉大な住人であるのに、なぜ自分を矮小化するのでしょうか。あなたは常に自然界の法則に守られています。あなたは自然界の中にも、外にも、あなた自身が自然界なのです。

三つの葛藤について話しました。感情と理解の衝突である、私たち自身の内面的、心理的な葛藤が一つ。私たちと同じ人間で構成される社会との外面的な葛藤が一つ。そしてもう一つが、私たちの理解を超える自然界との葛藤です。私たちには、個人的、社会的、そして自然界との葛藤という明白な三つのタイプの葛藤があります。

そして、四つ目の葛藤というものがあります。それは、普段あまり考えないことかもしれませんが、「誰が万物をこのように完璧な状態に保っているのだろう」という疑問に

対する答えを見つけようとする葛藤です。時空はなぜこのように規則正しく機能するのでしょうか。一見ばらばらに見える宇宙の諸相をつなげ、一つの全体として目的を持った動きをさせているものは何なのでしょう。自然界に無秩序の活動はありません。すべてのものには目的と理性（宇宙的原因）があります。この理性が宇宙の時空秩序の背後にあり、そしてこの理性は純粹意識と不可分なのです。

あらゆる所で働く普遍的理性というものがあります。それはロゴス（宇宙の原理）、あるいは全能の神と呼ばれることもあります。私たちの薄弱な理性は、普遍的理性に適応することができないため、ここでも葛藤があります。私たちは誰とも折り合うことができません。すべてと対立しています。なんという状況でしょうか！「すべてが気に入らない」。そう言うかもしれませんが、私たちに、そのようなことをいう権利はありません。すべて気に入らないとも、多くのものが好きだとも、私たちに言えないのです。

何かが好き、あるいは嫌いだというのは、まったく不合理な発言なのです。私たちは、宗教や哲学、思想体系で様々な名前と呼ばれている「普遍的理性」が支配する、「普遍的存在」の素晴らしく幸せな場所にいます。これさえ分かっていたら十分であり、心配はいりません。私たちが世界を見捨てなければ、世界が私たちを見捨てることはありません。しかし、私たちは世界を見捨てました。外部から干渉するものとして、世界を自分の外へ追いやったのです。世界を否定しています。私たちが求めているのは、それが何であれ、この小さな「自分自身」だけです。

それが何であれ、あなたの全霊と一つになっているもの、それがあなたを守ってくれます。私がある人の友達なら、あなたは私が困っていることや必要としていることで、助けてくれるでしょう。自然界と友好的であれば、自然界があなたを守ってくれます。社会環境と友好的であれば、社会があなたを守ってくれます。政府と友好的であれば、国があなたを守ってくれます。もしあなたが普遍的理性と一つであれば、あなたは超人になるのです。その時あなたは人間ではなくなります。

これはいわゆる進化の過程であり、この過程によって生物は徐々にホモ・サピエンス、ヒトと呼ばれる状態にまで到達したとされています。私たち人間は、この進化の過程の中間にいます。人間以下でも、人間を超える存在でもありません。進化の過程を経て人間のレベルにまで到達しましたが、私たちはさらなる進化を続けなければなりません。自分一人で完結している人はおらず、誰一人として自分に満足している人がいない事実が、進化にはまだ先があることを示しています。

私たちは、あらゆるところに有限性、限界、制限を感じ、それを打ち破りたいと感じます。あらゆる制限および有限性を打ち破りたいという願望は、本質的に無限で永遠の何かが存在することを示しています。制限のない自由が存在しなければ、私たちが人生で自由を求めて苦しむことはなかったでしょう。自由が存在していなければ、自由を求めることもなかったでしょう。有限ではないものが存在しないのであれば、私たちが、私たちの有限性のために苦悩することもなかったでしょう。不死が存在しなければ、私たちが死を恐れることもなかったでしょう。

これらは人間を超える存在のレベルがあることを示しています。人間のレベルの先にはさらに多くの、より高い段階があるのです。一般に信じられているように、人間は万物の霊長ではありません。神は自分にかたどって人を創造された。もし神が人間のような姿だったなら、それはとても残念なことです。私たちに神の在り方を想像することはできません。神は大きな人間ではありません。神は、私たちには想像することもできない完全なる永続、無死、無限、知性、包括性、自由、無欠、至福なのです。これが人生の目的です。

アカデミーは単なる学習の場ではなく、真実の啓発の場であるべきだと最初に言いました。皆さんは遠くから、たくさんのお金、エネルギー、時間を費やして、おそらく他では得られないであろうと考えたものを得るためにここへやってきました。あなたたちが求めているものは一体何でしょうか。あなたたちは、潜在的で無限なるものとして自身の内に秘められており、潜在意識や無意識に埋もれた状態から顕在化されなければならないものを求めているのです。

このような思考が浸透するアカデミーの小さなキャンパスで、このようなテーマについて話し、考え、内なる安心と平和の思考に専心する機会がここにあります。可能なかぎり目前で輝く喜びの光を浴び、そしてこの光を持って帰りなさい。

どこにいようとも私たちは自然界の中にいます。その私たちが、どこにいようとも常に幸福でいられるように、このアカデミーでは、スワミ、サニャーシン、マハートマ、ブラフマチャリ、大学の教授などの、学識ある人々の協力を得て、普通の人間の理解をはるかに超えた、高い知の必要性を満たす努力をしています。あなたは時間、空間、原因の世界にいます。したがって、どこにいようとも、時空と自然界全体を通して作用する法則と一体であれば安全なのです。そうすれば、あなたの中に葛藤はなく、個人が持つ葛藤に起因する他の人々との葛藤もなく、そしてあなた自身も含む自然界との葛藤もあ

りません。あなたが社会の外にいるのではないように、あなたは自然界の外にいるのではなく、そしてまた神の外にいるのでもありません。

冒頭で「私たちは今どこにいますか」と質問しました。あなたは、大いなる驚異、奇跡、宝庫の真ただ中におり、いずれその扉が開かれる日がやってきます。それこそが真の知恵であり、人生全体の目的です。

— OM —